

## データから読み取れる羽村市の現状

- ・羽村市の人口は微減（H23年57,623人→R3年54,725人）、年少人口（同8,214人→同6,804人）と生産年齢人口（同38,318人→同34,105人）は減少し、老年人口（同11,091人→同14,445人）のみ増加した。
- ・工業系事業所が減少している（H21年84事業所→H30年68事業所）。
- ・小売吸引力が低下しており、他地域に買い物客が流出している傾向にある（H19/0.87→H28/0.68）。
- ・農家数・農業耕地面積が減少している（H2年203戸、7,784a→H27年104戸、3,226a）。
- ・後継者がいないと答えた農家は全体の約4割。
- ・観光客は日帰りの方が圧倒的で、春や夏のイベント時に集中している。
- ・テレワークなどの影響か、2020年の駅乗車人員は2019年と比べ羽村駅で約3,000人（13,687人→10,125人）、小作駅で約4,000人（16,111人→11,900人）減少している。

## 事業者アンケートの結果

- ・工業の経営上の問題点：人材確保、業務効率化・生産性向上、販路拡大・開拓、収益確保、設備不足・老朽化
- ・商業の経営上の問題点：収益確保、販路拡大・開拓、顧客・需要・ニーズの変化
- ・農業の経営上の問題点：相続税等の税負担、高齢による体力面、労働のわりに収入が少ない

## 外部要因

- ・新型コロナウイルス感染症の影響から、テイクアウトやキッチンカー、通信販売など新しい業態に取り組む事業者が出ている
- ・市内外で企業の入替わりが起こっており、大規模事業所の新規立地によって人材確保が競争のようになっている
- ・SDGs、DX、CASEなどへの対応が迫られている。

## 各産業ヒアリングの意見

- 【工業】
  - ・市内企業がお互いのことを知らない。
  - ・地域に企業が知られていない、もっと交流をしていくべき。
  - ・人材確保は最大の課題。定着させることも課題。
- 【商業】
  - ・羽村は小さいので近隣を商圈としないと厳しい。
  - ・給食用の野菜が余った時に、飲食業者が買いあげたりした。これは生産者と事業者の距離が近いことの現れではないか。
  - ・挑戦する・挑戦したい人への支援が重要。
- 【農業】
  - ・飲食店からの要望が少量なので、なかなか連携に至らない。
  - ・農業を趣味でやるような人、定年後の人にも門戸を開くというような意識の転換が必要と思う。
  - ・農産物直売所の残品をうまく使ってもらえるようなシステムがあれば良い。出張販売などの取組みが市内でできないか。
- 【観光】
  - ・市内でお金が落ちる仕組みづくり。
  - ・マンネリが一番怖い。規模は大きくなくて良いので、単発ではなく継続性を優先していきたい。
  - ・市民でも市内のことを詳しく知っているとは限らない。市民にもアプローチしていきたい。

## 懇談会での意見

- 【工業】
  - ・教育などを通じた地域と企業との繋がりづくり。
  - ・多様な人材の活用と、市内に住む社員が増えることで経済循環をおこす。
  - ・ウィズコロナからアフターコロナの中で事業をどのように発展させていくか、ニューノーマルへの対応が必要。
- 【商業】
  - ・特色のある店づくりが必要。
  - ・名産品・お土産品が欲しい
  - ・事業承継と創業支援による集積の維持、プレーヤーの確保。
  - ・行政・支援・事業者、様々な領域を紹介できるコンシェルジュ機能の設置。
- 【農業】
  - ・移動販売、ネット販売などの販路開拓。
  - ・兼業・専業、双方の農家の収益性向上。
  - ・産学連携などで学生の力を借りられるのならばありがたい。
  - ・ロボット、AI等の活用によるスマート農業の導入。
- 【観光】
  - ・他産業の資源の活用。
  - ・観光資源の掘り起こし、磨き上げ。
  - ・羽村をハブにしたツアーを開発できるか。

① 産業の集積と連携、新たなチャレンジにより、イノベーションを生み出し、新たな価値を創出する

② 「羽村らしさ」を持つ地域資源を生かし、魅力のある産業を創出する

③ 市民と産業、行政がつながり、地域に根差す産業基盤とにぎわいを創出する